



防災資機材を

購入しました 宝くじ普及広報事業

財団法人自治総合センターは、宝くじの普及広報事業費として受け入れる受託事業収入を財源に、コミュニティ活動への助成を行うことにより、コミュニティの健全な発展を図るとともに宝くじの普及広報を行うコミュニティ助成事業を行っています。

黒潮町でも、この事業を活用して大和田地区自主防災組織に防災資機材を購入することができました。



宝くじは、広く社会に
豊かさ築く
チカラ持ち。

宝くじは、広く社会に
役立てられています。

大和田地区自主防災組織は、平成19年に設立されて以来、防災マップの作成、地区内の安全確保を目的に出役で危険箇所の整備や環境美化活動にも努め、また、地区内に海拔表示を設置し津波の危険箇所を表示するなど活発な活動をしており、防災意識の高い地区です。これらの活動が評価され、コミュニティ助成事業の対象となり、テントや救助工具などの防災資機材を整備することができました。大和田地区自主防災組織の渡辺会長は「今回、助成いただいた多額の防災用品については、これまでに取り組んできた姿勢が高く評価されてきた諸先輩に深く感謝しています。平成19年の設立以来、組織の合言葉を『地震だ 津波だ それ逃げる』と定めて、全地区内の人員と災害弱者の把握をいかに早く正確に収集するかを第一に考え、各世帯の合意のもと災害時に最も大切な人命確認をするための地区防災マップや住民台帳の作成を行いました。また、毎年訓練を重ねることに、

各班長の努力は元より、地区の皆さんも積極的に参加してそれぞれの特技を發揮しての訓練は、楽しい中にも救助、消火、救護技術の向上に役立ってきました。今後は、災害発生時だけでなく、防災訓練や地域でのイベントなどで活用し、今回整備していただいた資機材を地区の皆さんが最大限活用できるよう、これまでに以上に組織の強化と、自助・共助の関係を高め、あらゆる災害に対応できる知識と技術の向上を図ってまいりたいと考えています」と語っていました。






ご存知ですか？

災害建築物 応急危険度判定

地震で被災した建物について、余震で倒壊するなどの危険性があるかどうかを判定して表示を行うものです。国や地方公共団体、建築関係団体などが連携し、被災地域に判定士を派遣して行います。

大きな地震が起きると建物は少なからずダメージを受け、倒壊は免れていても地震に対する強さが弱まっている可能性があります。大きな地震の後には数回の余震が予想されますが、弱くなった建物は、余震によって倒壊したり部材が落下したりして人的被害を起しかねません。このため、被災者がそのまま家にいていいのか、避難所に避難した方がいいのかなどを判断するために、救命・救急・消防活動と並行して、できるだけ速やかに応急危険度判定を行う必要があります。判定結果は下の3種類のステッカーを建物の出入口などに貼り付けて表示します。なお、地震発生後の建物

の判定には、「被災度区分判定」や「住家被害認定」などがあり、また、建物と同様に造成された宅地に対しても災害時の応急対策として危険度を判定する「被災宅地危険度判定」もあります。それぞれの目的をご理解いただき、判定のための調査の際にはご協力くださいますようお願いいたします。

<p>(赤)</p>  <p>この建物に立ち入ることは危険です</p>	<p>(黄)</p>  <p>この建物に立ち入る場合は十分に注意してください</p>	<p>(緑)</p>  <p>この建物は使用可能です</p>
--	---	---

●このページの記事に関するお問い合わせは、以下をお願いします。

【本庁】総務課 消防防災係 ☎43-2112(直通) 【佐賀支所】地域住民課 総合窓口第1係 ☎55-3113(直通)